

めだか大学通信 1

2012.2

寺子屋が終了し、2012年から新しい体制となりました。これからめだか大学傘下の「つくり小屋」「うた小屋」「すみれ分教場」「にんじん畑」の全体がわかるように、通信を1つにしていこうにしました。これまでのように、それぞれで出すニュースは自由です。

「つくり小屋」

1月は、●小須田淳さんの『小海小学校』が詞・曲ともできあがり、みんなで歌いました。誰の思い出にも重なる懐かしく明るい歌となり、拍手でした。

●平井敏男さんの『砦』は、私（岡田）としては五音階に置き換えられたときの線の太さを感じてほしかったけれど、職場の状態をどう見るかという現代の難しい問題があるので、平井さん自身の納得を待って又みんなでも考えたいと思いました。しばらくこれを置いて、別の作品をやってみてもいいかもしれません。●斉藤敏枝さんの『祈り』と●細田伸昭さんの『富士見橋』の二作は1月は詞の検討でしたが、2月7日現在、どちらもできあがりました。『富士見橋』は三線も入るので楽しみです。

★このほか、みんなでト音記号（高音部記号）のラの高さ（振動数）が国際的に決められていることの勉強をしました。

◎小須田さんのレポートです。

「つくり小屋に参加し『小海小学校』を作りました。僕の通った小学校の歌です。

2009年8月、寺子屋の作詞講座を笠木講師から受けました。笠木さんから言われたことは、①字余りを直す②リフレインを入れる、ということでした。1年間

考え悩み中々詞がまとまりませんでした。2011年に岡田さんに勧められて「つくり小屋」に参加し、詞をみなさんに見て頂きました。皆さんのアドバイスは大変暖かいもので大きなヒントを与えられました。

暮れに岡田さんに補講をしてもらい、アクセントから指導してもらい、曲が出来ました。メロディを岡田さんに弾いてもらいましたら、非常にプレーンで歌いやすいものになっていて、日本民謡音階のすばらしさを実感しました。1月の「つくり小屋」でみんなに聞いてもらい、一緒に歌ってもらいました。皆さんからとても歌いやすい、親しみやすいと言われ感動しました。どうも皆さんありがとうございました。（小須田）

「うた小屋」

「うた小屋」は、今年から大きな変化をすることになりました。これからある時期まで「うた小屋」は、めだか大学の「つくり小屋」「すみれ分教場」(時には)「にんじん畑」等で作った歌をみんなで共有し練習しながら、「新しい人間関係を作っていく活動」に役立てていきたいという方向です。その第1歩として、次の二カ所に向けての練習をスタートしました。

① 1月22日 鈴木たか子さん主催の「日曜版」(誰もが参加して発表出来る場を、もう100回も作ってこられた)に、出演が決まっている村上稔子さんの『うれしかった』(小太鼓の伴奏者として中村由紀男さんも出演)の練習。

② 6月に予定している「笠木さんの詩の講座に参加した人たちの新曲コンサート」の曲目の中から、第①号として細田伸昭さんの『そうは思っただけのもの』の練習です。

では本番を終わった村上さんはどうだったでしょう。村上さんの感想は次の通りです。

村上 稔子

1月22日の日曜版で『うれしかった』を披露して来ました。

「人の前で歌うなんてとてもとても。まして一人で歌うなんてとんでもない」と思っていました。自分で決めたことだからやるしかないと気持ちをふるい起こして参加しました。

主催者でピアニストの、関西出身の鈴木たか子さんと中村由紀男さんの太鼓に助けってもらったので頑張れました。特にたか子さんに♪一人で着たんか 大きいなつたな♪の所を歌ってもらったので、60年くらい前に母親に認められた時の嬉しさが蘇って来ました。

無我夢中だったのであまりわかっていなかったのですが、その時の様子を中村京子さんが撮ってくださった写真を見ると、たか子さんと由紀男さんが子どもの発表会を見るようなまなざしで居てくださり、その中で楽しそうに歌っていました。「幸せな時間だったんだなあ」と、しみじみ感じました。参加者の一人から「すごい、自分でつくったんですね!」と驚きの声があったんですが、いちばん驚いているのはこの私でした。

●さて③というのもありました。

2月5日に浦安市の堀江公民館主催の「子育て支援講座」の最終回に「歌のパワーを感じよう」というタイトルで岡田が講師として行きましたが、その時に「つくり小屋」の小池久美子さんの『ばばの子守唄』と斉藤敏枝さんの『みんな一緒だからね』の二作品を紹介して、みんなで覚えました。

10時から12時の二時間ですが、この二曲も二人の人柄も想像以上に受け入れられて感動的なひとときとなりました。小池さんと斉藤さんの感想は次の通りです。

小池 久美子

「2月5日、若いお母さんたちの集まりに行きましょう。斉藤さんとあなたの作った歌を紹介して歌うから…」と岡田さんに誘われて、ビックリしながら行ってきました。

集まったお母さんたちは、私の子どもと同年代くらい、お子さんも孫と同じくらいのようにでした。

岡田さんのお話の後、最初は緊張しながらみなさんと一語に歌い、何回か繰り返して歌っているうちに、お母さんたちの表情も柔らかくなって行き、斉藤さんの歌は手拍子を取りながら楽しく歌うことが出来ました。

最後に一人ひとりの感想の中に、「家に帰ったらこの子守唄を今夜子どもに歌ってあげたい」と言って頂き、本当にうれしく思いました。

夜我が家で、早速娘夫婦に話しました。孫も「パパ、ウレシソウ」と言ってくれて、又々この歌が大切な宝物となりました。すてきな機会を頂き、ありがとうございました。

斉藤 敏枝

参加者は、ちょうど息子のお嫁さんと同じくらいの子育て中のパパとママたちでしたのでどんな風に子育てしているのかな、私たちが作った歌を、どんなふうに歌ってくれるのかなと楽しみでした。

最初の頃は緊張していたようで、声も小さかったのですが、「へたでもいいから子守唄はお母さんの声が一番よ」とか「笑顔になってごらんなさい。みんな美人になるよ！体も笑顔になると緩むんだよ！」と岡田さんが声をかけていると、だんだんとみんなの顔がほころんできて、足でリズムをとったり手拍子をしたり、声も大きくなって楽しそうに歌い出しました。

歌ったあとの感想では「これからは子どもたちに子守唄を歌ってあげようと思いました」というパパや、「久し振りに大きな声で歌ったので、とても楽しかったです」「なんだか懐かしい気持ちになりました」と、みんな初めの頃とは違った晴れ晴れとした表情で話していました。時々ハンカチで涙を拭いている人たちもいましたので、私も胸がジーンとなりました。

声を出して一緒に歌うと言うことは、みんなが笑顔になって仕合わせな気持ちになれる素晴らしいことなんだなあ…と、

改めて実感しました。と同時に岡田さんの活動の大切さも実感しました。

日本中の子どもたちが、パパやママから子守唄を歌ってもらって育ったら、きっと素晴らしい世の中になっていくことでしょうね。

「すみれ分教場」

確か05年に始めたと思います。宮沢賢治を知る勉強会から始まって、小泉文夫さんの音階論を初めとする勉強もしましたし、かなり早いうちから三グループに分

けて、賢治の詩に曲をつけたり、ミニミニシアターで「雪わたり」等も何度か上演したり川越の「唐人揃い」には何度も参加するなど、「めだか大學」の大學は遊び心でつけた名前でしたが「ユニバーシティ」らしいことをやったのはここでした。何よりもよかったことは、一つの問題について、よくみんなでしゃべったことだと思います。

私や安達の師だった哲学者の福田定良氏は「人間が生きるためには哲学が必要だ。哲学とは考えることだ、そして考えるとは話し合うことだ」と言われましたが、私にとって、この実践が意識を持ってされた唯一の場だったかも知れません。

いろんな事情で、この分教場は今年半ばで解散しなければなりません、それぞれの良い旅立ちになれるよう、良い会を重ねていってほしいと思います。

● 作品として最近のものは、村上さんの『うれしかった』のほか中村京子さんの『思いだす手』、進行中のものは中村由紀男さんの『未来につづく命』船岡嘉彦さんの『母さんごめんなさい、そしてありがとう』があります。船岡さんの曲は、笠木講座でつくられているので、6月のコンサートに出るはずですよ。

● この中村家の二人の兄妹とその親友の根本くんという若者が、つかの間でしたが曲作りにトライしています。そこで出来たのが、笠木さんの詞『海に向かって』です。この曲と一緒に歌うひまもなく、三人とも北海道に移っていきました。6月には、「すみれ」でこれも歌う予定です。

「にんじん畑」

私(岡田)とは二〇数年のおつきあいになります。元々は練馬区の学童保育や児童館の指導員の人たちが中心になって始めた歌の会でした。歌をうたうことが中心だった会で、曲作りは7年ほど前から1年に一度合宿をして作ってきました。

私はここで、色んなことを学びました。「作曲を目指すのではない人たちが作曲する意味は何か」「互いの曲を大切に思う気持ちが、どうしてこんなに自然に育っていくのか」「五音階を使って作曲すると、どうしてそれぞれらしいものが素直に生まれるのか」等です。「言葉に働く自然の法則をよりどころとする」ことの重大さを教えてもらったのもここです。

今病気の人たちが4人、いろんな事情でやめなければならない人たちが二人もいて、半数以上減り、とうとう1月は3人しか出られないとあって、今後のことを喫茶店で話し合うということになりましたが、続けることで一致しました。こうなると覚悟も決まって、夢も湧くということも体験しました。6月には渡辺ミヨ子さんの『いろりのあかい火』(笠木講座の作品)と一緒に出演してほしいと思っています。

◎これで、各グループの紹介を終わります。これから互いに助け合った良い交流が出来ることを願っています。それぞれのニュースをこれからもお届けしたいと思いますので楽しみにしてください。 岡田